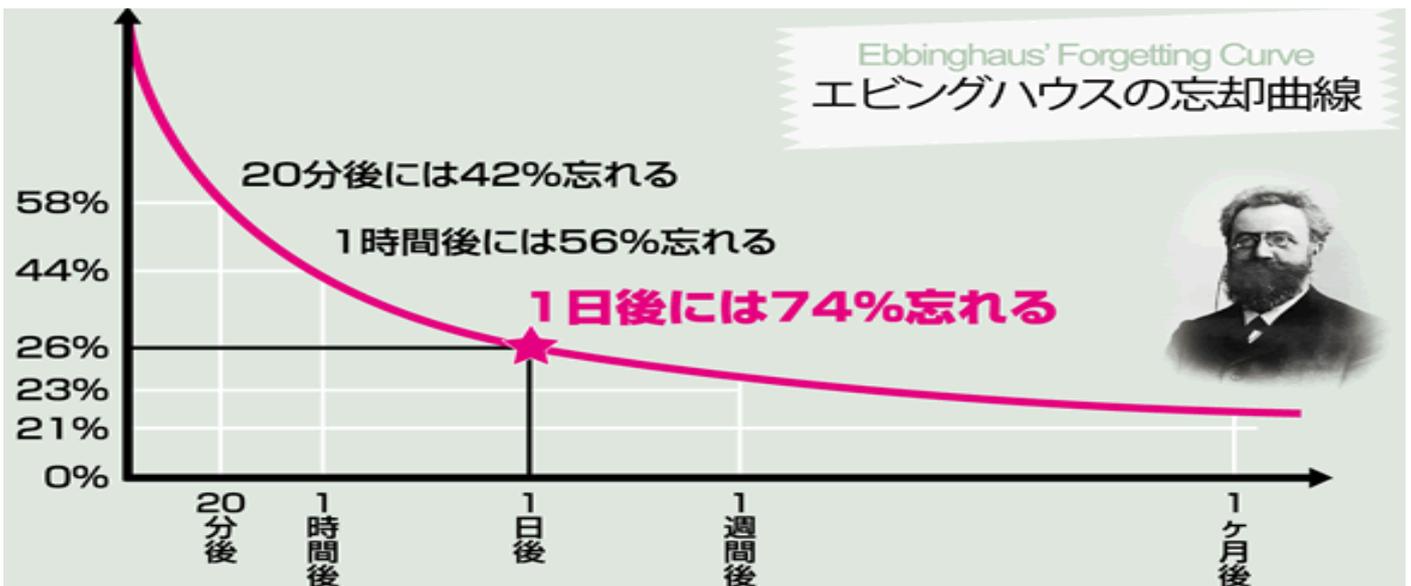


日中は日が照り暑く感じますが、朝晩を中心に冷え込んできており、秋の深まりを感じる時季になりました。季節の移り変わりは、体調の変化が現れやすいです。体調管理に気を付けて過ごしていきましょう。10月号の後半バージョンを発行します。今号では「学習」に関する話をします。

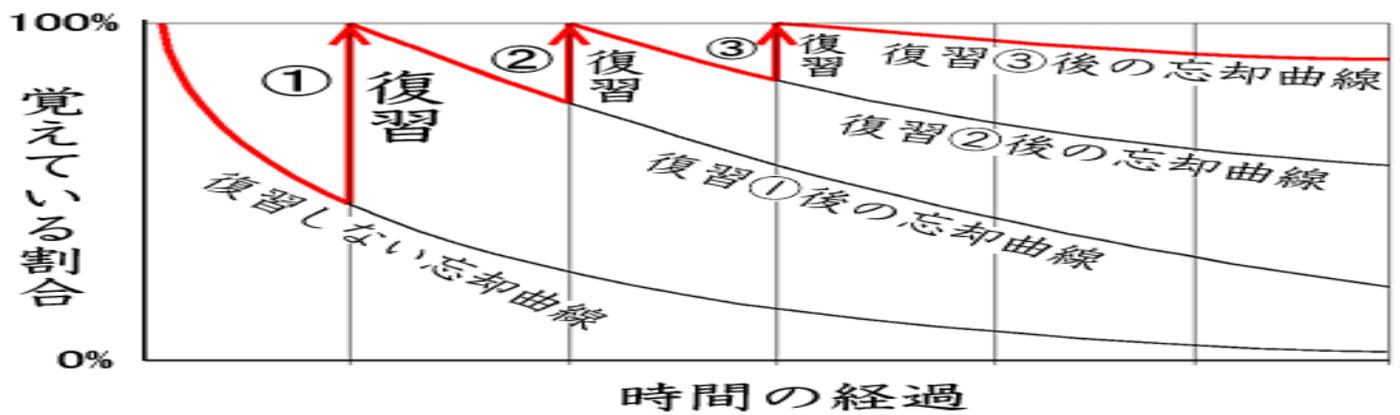
先週の金曜日に、各クラスで通知表が配付されました。おそらく、各教科の評定（5・4・3・2・1）が気になる生徒が多いでしょう。もちろん、その評定を見て、後期への頑張りに繋げていく人もいますでしょう。しかし、学習担当としては、各教科の「観点」の評価をしっかりと見てほしいと思います。観点の評価は、A・B・Cの3段階で表されています。教科でCのついている観点があった人は、まずはそこを改善していきましょう。どのように改善していけばよいか分からない人は、教科担任の先生に相談してみるとよいでしょう。前回の学年日より添付した通り、後期も単元テストがあります。また、12月と3月には実力テストが予定されています。計画的に取り組みましょう。

◎なぜ復習や反復学習が大切なのか。

後期を迎えるみなさんに私から伝えておきたいことがあります。それは「復習」と「反復学習」です。よく先生や塾が「問題集を5回解こう」や「復習が大切」と言っています。その根本的な理由は、以下の通りです。



これは「エビングハウスの忘却曲線」です (<https://trinity.jp/118843/>より引用)。学習している時は、100%記憶に残っています。しかし、時間が経つにつれて記憶がなくなってしまいます。では、復習をするタイミングはいつがよいか、知っていますか。裏面の資料をご覧ください。



(<https://plaza.rakuten.co.jp/jikuuprint/diary/201903190000/>より引用)

問題集を解いた場合、1回目の復習(①)を1日後に行います。2回目の復習(②)を①の1週間後に、3回目の復習(③)を②の2週間後に行うことで、定着を図ることができます。基礎を身につけるためには、反復が必要です。基礎を積み重ねることによって、標準や応用への練習とつながります。入試へ向けた勉強も、まずは基礎の反復学習を行い、基礎学力の定着を図ることが大切です。地道な作業になりますが、こつこつと取り組むことが大切です。これからの学習では「復習すること」を常に意識して、勉強のサイクルを確立していこう！

◎結果が出る人と出ない人の一番大きな違いとは？

「結果が出る人」は、問題を解けるようにしてからテストを受けています。

「結果が出ない人」は、単に教科書のまとめをするだけ、問題を解くだけでテストを受けているのです。

「問題を解けるようにする」と言うと、何か難しい問題を解ける能力が必要と思うかもしれませんが、しかし、そんなことはありません。言い過ぎかもしれませんが、理解が50%でも、解けるようにすることはできるのです。いわゆる、問題と答えをセットで覚えるということになります。「解答を覚える」というと印象を悪くするかもしれませんが、そんなことはありません。「理解」を優先し過ぎると、結果を出せないことがあるのです。

テスト前にする作業の中心は、「問題を解くこと」です。このように解けるようにする練習を7日前から取り組みます。テスト本番は、問題を解きます。だから、テスト勉強も問題を解くのです。簡単にまとめると、8, 9, 10日前は、「理解する」、「まとめる」時期なのです。例えば、ノートやプリントをもう一度見直す、教科書や資料集を読むなどです。

問題を解くポイントは、「同じ問題集」を、「同じ順番」で「解けるようになるまで繰り返し解く」ことです。とにかく問題を解くのです。よく、「同じ問題を何回も解いていたら、答えを覚えてしまって意味がない」と言う人がいます。全くの誤解です。「書けるようになる」ことは、立派なことです。